

平成29年第4回庄原市議会定例会

一般質問通告者
及 び
質 問 事 項

6月26日～6月28日

質問順位

- | | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| 1. | 近 藤 久 子 | 2. | 横 路 政 之 |
| 3. | 岩 山 泰 憲 | 4. | 坂 本 義 明 |
| 5. | 吉 方 明 美 | 6. | 宇江田 豊 彦 |
| 7. | 徳 永 泰 臣 | 8. | 福 山 権 二 |
| 9. | 谷 口 隆 明 | 10. | 田 部 道 男 |
| 11. | 政 野 太 | 12. | 五 島 誠 |

庄 原 市 議 会

平成29年6月定例会 一般質問

順位	質問議員	質 問 項 目	ページ
1	近藤久子	市民の健康寿命の延伸について	1
		生活困窮者自立支援事業について	3
		市民会館整備事業について	4
2	横路政之	準要保護児童生徒に対する就学援助の対応について	5
		鳥獣被害対策について	6
		住居表示の更新について	6
3	岩山泰憲	多面的機能支払交付金について	7
		県管理施設等の危険箇所の整備について	7
		若者世帯への支援策について	9
		測量設計業務委託の最低制限価格について	9
		廃校施設を活用した地域活性化の取り組みについて	10
4	坂本義明	庄原さくら球場の現状と課題について	11
5	吉方明美	庄原市交通交流施設整備事業について	12
		紙おむつ処理用のごみ袋支給について	13
6	宇江田豊彦	二期目の所信について	14
7	徳永泰臣	J R芸備線の必要性和利活用について	15
		マラニック大会について	16
8	福山権二	米軍機低空飛行訓練対策について	17
		庄原市森のペレット工場の経営について	17
9	谷口隆明	国民健康保険の県単位化（広域化）について	19
		平成30年（2018年）以降の米つくりについて	20
		核兵器禁止条約について	21
		東城での一般病床の廃止について	21
10	田部道男	水田減反・転作制度の転換に伴う対応について	22
		株式会社緑の村の役員体制について	23
11	政野太	人口減少時代におけるまちづくり・ひとづくりについて	24
12	五島誠	人材育成及び人材確保の取り組みについて	26
		ヒバゴンの活用について	27

順位	1	質問者	近藤 久子	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 市民の健康寿命の延伸について	今年3月に「第3次庄原市健康づくり計画」が、第2次計画の取り組みの成果と課題を踏まえ、個人の健康づくり、それを支える環境づくりによる健康寿命の延伸実現に向けて策定されている。			市 長 教育長
	その取り組み内容の以下の点について伺う。			
	(1) 計画の体系図としての3本の基本目標の中で、喫煙習慣の改善が、個人の嗜好としてではなく、第3次計画においては生活習慣病予防として位置づけられている。ここに至った議論の経緯と、計画の成果目標に向けた重要なポイントは何か伺う。			
	(2) 問題意識の高まりのある受動喫煙を防止する環境づくりの具体案は、どのようなものがあるのか伺う。			
	(3) 「健康増進法」第1章総則、責務の中で健康増進事業実施者として、保険者、事業者、市町村、学校等とあり、それぞれが事業を積極的に推進するよう努めることと定められている。この度の平成34年度までの目標として、学校との更なる連携による取り組み強化が示されているが、教育委員会としてどのような体制で臨まれるのか、教育長の見解を伺う。			

順位	1	質問者	近藤 久子	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 市民の健康寿命の延伸について	(4) 健康マイレージ事業についての検討はなされたのかを伺う。			市 長 教育長
	(5) 今年9月に庄原市民会館において乳がんについての講演会が予定されている。このチャンスに現在ピンクリボンキャンペーン実行委員会の未結成の比和・高野地域への呼びかけを初め、現存の実行委員会との協力体制により、早期発見・早期治療に向けての啓発活動をより着実に進めるべきと考えるが、市長の見解を伺う。			
	(6) 本市の要介護・要支援認定者の有病状況は、「心臓病」「筋・骨格」「高血圧症」が突出して高い状況にある。団塊の世代自身が、後期高齢者になるまでの喫緊の健康面の課題としてとらえるためにも、継続かつ的確な情報提供が重要ではないかと考えるが、市長の見解を伺う。			
	(7) 保育所・小・中学校において虫歯の治療を受けていない子どもの多さが課題である。今後の対策は充分であるのか伺う。			

順位	1	質問者	近藤 久子	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
2. 生活困窮者自立支援事業について	生活困窮者自立支援法が成立し3年目に入った。庄原市においては必須事業に加えて、任意事業の「一時生活支援事業」と「家計相談支援事業」が始まっている。事業実施にあたって以下の点について伺う。			市 長
	(1) 今年4月に第2回の「自立支援事業に関する連絡会」が開催されている。相談者の抱える多様で複雑な問題解決のための支援について、前年度の実態数から、どのような議論がなされ、また、関係部署との連携は図られているのか伺う。			
	(2) NPO法人あいあいねっと・フードバンク広島活動を参考にして、今後庄原市においても、食品ロスの考え方で、食料供給に協力頂ける体制づくりが可能だと考えるが、市長の見解を伺う。			
	(3) 暮らしを支えるためのあらゆる困り事の相談窓口として、認知度を高める広報が必要と考えるが、市長の見解を伺う。			

順位	1	質問者	近藤 久子
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
3. 市民会館整備 事業について	昨年、平成 30 年度末を目途にグランドデザインを考える中で方向性を示したい旨の答弁があった。平成 29 年度に市民会館等整備事業としての整備検討委員会等に 200 万円の予算計上があるが、立ち上げの日程と検討内容について伺う。		市 長 教育長

順位	2	質問者	横路 政之
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
1. 準要保護児童 生徒に対する 就学援助の対 応について	就学援助は、児童・生徒の家庭が経済的に困窮している場合、学用品や給食等の一部を市区町村が支給し、国が2分の1を補助する制度であるが、新入学時に必要なランドセルなどの学用品の費用については、国の要保護児童生徒援助費補助要綱で小学校入学前を含まない児童又は生徒の保護者とされていたため、入学後の支給となっていた。また、国は同要綱を平成29年3月31日付で改正し、「新入学児童生徒学用品費」の単価を従来の倍額にして、支給対象者へ新たに就学予定者を加えた。 しかしながら、この措置は、あくまで要保護児童に限ったものであり、今回、準要保護児童生徒はその対象ではない。この準要保護児童生徒に対する「新入学児童生徒学用品費」の対応について、今回の法改正の趣旨や本市における準要保護児童生徒の現状を鑑みた場合、本市独自でも平成30年度から実施できるよう準備を進めることが重要と考える。 具体的には、準要保護児童生徒を対象とする新入学児童生徒学用品費の入学前からの支給に対応するための予算措置、システムの変更、要綱等改正など確実に準備を進めていくことが必要と考えるが、教育長の考えを伺う。		教育長

順位	2	質問者	横路 政之
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
2. 鳥獣被害対策 について	本市では、野生鳥獣の被害が深刻である。特にイノシシは、作物のみならず田んぼの畔やのり面を掘り返し、被害が拡大している。 鳥獣被害対策については、これまで多くの議員が一般質問で取り上げたところであるが、現在の本市における被害の実態はどうなっているか。また、対策はどういったことをされているのか。 全国には、ハード面の対策に加えて、ＩＣＴを導入して成果を出している自治体もあるが、本市においてもＩＣＴの導入を積極的に取り入れてみてはどうか。市長の考えを伺う。		市 長
3. 住居表示の更 新について	住居表示のプレートについて、経年劣化による破損、欠損による住居表示が不明な物、文字の判別できない物が見受けられる。 この際、工夫を凝らした新しいものに取り換えてみてはどうか。観光客を市内へ誘導する方法を検討している中で、本市のイメージを損なわないためにも大事なことだと考えるが、市長の考えを伺う。		市 長

順位	3	質問者	岩山 泰憲	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 多面的機能支払交付金について	多面的機能支払交付金の制度は法律で制定されており、今後継続されることが予想される。現在、各地域で申請し認定され交付金を受けているが、市内にはまだ多くの地域で高齢化や事務手続きになれない等の事情でやむなく申請ができない地域がある。 国も組織の広域化を進めており、現在認定されて実施している地域以外については、市が主導して広域組織を作り、市内全域の農業者全員が希望すれば加入でき、交付金を受けることができるような取り組みを進めるべきと考えるが、市長の考えを伺う。			市 長
2. 県管理施設等の危険箇所の整備について	(1) 国道 432 号線須川トンネル、田の平トンネルは、側壁が数か所剥がれるなど経年劣化し、トンネル内でも事故が頻繁に起きている。原因は不明であるが、路面に湧水があること、トンネル内の歩道との境界が見えにくい、照明が暗い、トンネル内がカーブしている、断続的に勾配があることなどが考えられる。 庄原市として国、県等関係機関と一体となって、早急に抜本的な改修を検討すべきと考えるが、今後の対応を伺う。			市 長

順位	3	質問者	岩山 泰憲	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
2. 県管理施設等の危険箇所の整備について	(2) 国道 432 号と県道西城比和線の交差点を児童生徒が毎日横断しているが、極めて危険であり、早急に信号機と横断歩道の整備が必要と考える。今後の対応を伺う。			市 長
	(3) 比和下町の旧家畜市場周辺は、集中豪雨時に比和川が氾濫し家屋が浸水する。 これを解消するため、大雨時に水圧で堰体が跳ね上がり、もとに戻る可動堰の設置を県等関係機関に要望するなど、今後の対応について、市長の考えを伺う。			
	(4) 国民休暇村吾妻山周辺の駐車場やキャンプ場等は、県の施設で老朽化が進み大変危険な状況となっている。 今後、県と市と関係者で話し合い、県において一体的な整備を進める必要があると考えるが、市長の考えを伺う。			
	(5) 県道中領家庄原線は、本村町側は改良されているが、総領町側は未改良のままである。町境の地域は同じ生活圏であり、早急に総領町側の改良工事に取り組むよう、県に強く働きかけていく必要があると思うが、市長の考えを伺う。			

順位	3	質問者	岩山 泰憲	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
3. 若者世帯への 支援策について	現在、世羅町や三次市など近隣の市町に若者が魅力を感じ、定住を求めている現状がある。その要因として、若い勤労者に対する子供の医療費補助、保育料の低減など細やかな支援策が見受けられる。 市長は「庄原いちばん」を掲げられ、精力的に各種施策の推進に取り組まれているが、産婦人科問題、出産育児、保育、小中学校、高校、大学まで見据え、18 歳までの医療費の負担、保育料等各種制度の軽減など、若者の生活を支援する取り組みこそが、市内での勤労と定住に結びつくと考える。各施策を早急に総合的に検討し、「庄原が子育て推進のいちばん」を打ち出すことにより、地域の活性化に結びつくと考えるが、市長の考えを伺う。			市 長
4. 測量設計業務 委託の最低制限 価格について	各種公共事業の実施に当たり、地元業者が受注することにより、地域の雇用の場の確保されることが重要である。その中で測量設計業務委託についてのみ、最低制限価格が設定されず、実施に必要な経費を割り込んでの入札が実施されている。 国、県においても最低制限価格を保障することに取り組まれているが、なぜ、測量設計業務委託のみ対象外とするのか、その理由を伺う。			市 長

順位	3	質問者	岩山 泰憲	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
5. 廃校施設を活用した地域活性化の取り組みについて	(1) 廃校舎の場合、下水施設等が当時の生徒数により大規模となっているため、維持経費が多大となることから、地元が借用して管理することが困難な状況にある。 地元が使用したいと要望がある施設は、集会所並みのトイレに市が改修して地元へ貸与し、管理経費は地元負担として活用することができないか考えを伺う。			市 長
	(2) 地域での使用が考えられない場合、地域の合意が得られれば、思い切ってインターネット等を活用して公募により、希望する企業等に廃校舎を売却又は賃借した方がよいのではないかと考える。 関係部署で活用対策検討会議等を立ち上げ、取り組みを進めるべきと考えるが、見解を伺う。			

順位	4	質問者	坂本 義明	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 庄原さくら球 場の現状と課 題について	(1) 公式戦や大会の開催においては、サブ グラウンドが必要と思われるが、現状はど うなのか。今後、早い機会にサブグラウン ドの整備を計画すべきと考えるが見解を伺 う。			市 長 教育長
	(2) 大会開催時においては、駐車場が大変 不足していると思われるが、現状について 伺う。			
	(3) 練習スペース等が不足している状況で は、練習中に不測の事故が起きる恐れがあ るが、危険防止のための対策はとってある のか伺う。			
	(4) グラウンドや設備の改善についても配 慮すべきだが、芝生の張り付けなどを含め た施設や設備の改修計画について見解を伺 う。			

順位	5	質問者	吉方 明美	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 庄原市交通交 流施設整備事 業について	本事業は平成 31 年度末の完成を目指し進め られている。この事業を進めるにあたり、次 の点について伺う。			市 長
	(1) この事業のコンセプトは何か伺う。			
	(2) 庄原駅は市外からの観光客を市内周遊 させる玄関口となり得るのか伺う。			
	(3) 駅周辺のまちづくり計画では、地域住 民が気軽に集える場としての拠点とすると しているが、その具体策を伺う。			
	(4) 多目的スペース設置となっているが、 交流人口はどのくらい増えるのか伺う。			
	(5) 地域住民及び関係者の意見はどう反映 しているのか伺う。			
	(6) 平成 25 年 6 月には、駅利用者 607 人か らアンケートを取っておられるが、どのよ うに反映しているのか伺う。			
	(7) J R 芸備線の利用者が少ないと言われ ているが、通学生のためには欠かせない移 動手段である。最も利用している通学生の 声を聞かれたのか伺う。			
	(8) ひだまり広場は今後どうするのか。ま た、保護者の意見は聞かれたのか伺う。			

順位	5	質問者	吉方 明美
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
1. 庄原市交通交 流施設整備事 業について	(9) 実施設計に地域住民、関係者、利用者の意見を取り入れ、魅力ある拠点にすべきと考えるが、今後このような意見を反映させるつもりはあるのか伺う。		市 長
2. 紙おむつ処理 用のごみ袋支 給について	この件については、平成 27 年 6 月議会、平成 28 年 6 月議会と質問を行ってきた。 その結果、昨年 6 月議会の一般質問に対して、市長は平成 29 年度から 3 歳までの幼児、及び在宅介護高齢者に対して相当のゴミ袋を支給すると約束されたと受け止めている。 しかし、平成 29 年度の予算には計上されなかった。本会議での答弁に対して市長は責任を持つべきと考える。 早急に予算措置を行い、実行すべきと考えるが、市長の見解を伺う。		市 長

順位	6	質問者	宇江田 豊彦	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1．二期目の所信 について	市長二期目の再選を果たされ最初の定例会となることから、改めて所信を伺いたい。			市 長
	(1) 市長におかれては、おそらく一期目に策定された「第二期庄原市長長期総合計画」に基づき、本年3月定例会の施政方針で、より具体的に所信を示しているとの認識と思うが、今期の当初において、一期を振り返り改めてどのように考えているか伺う。			
	(2) 施策推進において、より市長の狙いを急ごうとすると「トップダウン」の傾向に陥るのではないかと懸念するが、どのように考えているか。また、職員定数から見ても大きく職員が減少した今日、より組織が機能しなければ、効果的な施策推進に繋がらないと思うが、基本的な施策推進のスタンスについて伺う。			
	(3) 横断的組織運営をめざして再設置をされた部長制も一年が経過をしたが、十分に機能している状況なのか伺いたい。			
	とりわけ具体的施策を通して、「土地区画整理事業」や今回、補正予算案でも提案されている「国営備北丘陵公園北エリア社会実験事業」など各部・関係課による調整が大切であると思うが、どのような展開になっているのか、また部制を効果的に進める意向なのか市長の見解を伺う。			

順位	7	質問者	徳永 泰臣	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. J R 芸備線の 必要性と利活 用について	J R 西日本は、芸備線の区間別のデータを公開し、赤字ローカル線は廃止もあり得る事を公表して、三江線の廃線も決定した。早ければ平成 30 年（2018 年）春にもバス路線に転換するとの事であり、次は芸備線と言った話も現実には近づいているように思えるが、今後の本市としての方針について伺う。 （1） J R 芸備線の必要性について、第二期生活交通ネットワーク再編計画の中で、 J R 芸備線は通学等の手段として地域に根付いており、今後も維持確保していくとあるが、本市の具体的な取り組みについて伺う。			市 長
	（2）平成 29 年施政方針の中の「生活交通の充実」では、 J R 芸備線の総合的な対策について研究するための組織を設置し、効果的な取り組みを進めるとあったが、進捗状況について伺う。			
	（3）昨年 3 月の一般質問の市長答弁で、自転車の車内持ち込みにより、市域外からの観光客を呼び込むとの答弁があったが、その後の取り組み状況について伺う。			

順位	7	質問者	徳永 泰臣	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. J R芸備線の 必要性と利活 用について	(4) J R西日本社長の中国新聞のインタビ ューで「J R西日本は、赤字という経済的 な側面より、鉄道が本当に地域にプラスに なっているかという点に関心を持っている 。地域共生企業を打ち出し、地域が目指 す特色づくりを手伝えるかもしれない。例 えば観光。神楽を活用したいという声があ れば、協力できるものはする。」と答えてい る。J R西日本がこのような考えを持つ中、 本市の考えについて伺う。			市 長
2. マラニック大 会について	比婆いざなみ街道の沿線地域を活用した大 型の街道シンボルイベントとして、「比婆いざ なみ街道マラニック大会」を計画されている が、具体的な内容と進捗状況について伺う。 (1) マラニックとは、こういった競技で、 コースの設定、区間等どのように想定され ているのか伺う。			市 長
	(2) 「比婆いざなみ街道」の持つ魅力を内外 にアピールする大会であると思う。大会成 功の為には、市民の盛り上がりが重要と考 えるが、現在、実行委員会も未結成である。 大会に向けた準備の進捗状況について伺 う。			

順位	8	質問者	福山 権二	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 米軍機低空飛行訓練対策について	(1) 岩国基地の機能強化によって米軍戦闘機の低空飛行訓練が強化されると予想されるが、市域の状況把握はどうか伺う。			市 長
	(2) 米軍戦闘機の低空飛行訓練について、市はその実施計画を十分に把握し、市民に周知することにより、訓練による被害を最小とする努力が必要であると考えているが、市長の見解を伺う。			
2. 庄原市森のペレット工場の経営について	(1) 庄原市森のペレット工場は、新産業育成、雇用創出、森林、里山整備、山林所有者の所得確保と育成を目指して企画されたものであるが、この工場はその目的をどのように達成しているのか伺う。			市 長
	(2) この会社の施設は、公有財産管理規則により管理されているが、行政財産、普通財産のどちらで管理しているのか伺う。			
	(3) この施設の設置管理条例は制定されていないが、その理由は何か。また、この施設の建設費は2億 3,000 万円であったが、この財政規模と同程度で市が財政負担している施設で公有財産管理規則により管理しているものが他に存在するのか伺う。			

順位	8	質問者	福山 権二
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
2. 庄原ペレット 工場の経営に ついて	(4) この施設の管理は、公有財産管理規則 にとどまらず、設置管理条例を制定して、 市民に予算投入の目的、成果実績を報告す べきであると考えているが、市長の見解を伺う。		市 長

順位	9	質問者	谷口 隆明	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 国民健康保険 の県単位化(広 域化)について	国民健康保険は、憲法第 25 条に基づいた社会 保障制度で、いつでもだれでも安心して医 療を受けることができる制度である。広島県 の国民健康保険運営方針案によると、保険料 の平準化とともに医療費水準の適正化、地域 医療構想による病床削減などなど多岐にわた っているが、以下の点を中心に伺う。 (1) 国が示しているガイドラインにあるよ うに、保険料賦課決定等権限及び予算決定 権はこれまでどおり市町村にある。その立 場で国保広域化等連携会議などに臨んでい るのか。			市 長
	(2) 5 月 19 日の県の運営方針素案について、 議会や市民に公表し意見を求めないのか。 県のスケジュールでは、6 月には、市町へ の意見聴取となっているが、本市はどのよ うに検討し回答するのか。			
	(3) 統一保険料を基本とする 1 人当たり保 険料収納必要額（試算）によると、本市も 保険料負担が増加となる。国保の県単位化 （広域化）による保険料の引き上げは行わ ないよう取り組むべきだと考える。市長の 考えを伺う。			

順位	9	質問者	谷口 隆明	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 国民健康保険 の県単位化(広 域化)について	(4) 国、県は、一般会計からの法定外繰り入れをなくす方針だが、「高すぎる保険料」を「払える保険料」にするため、新規の繰り入れを行い、保険料を引き下げる考えはないか伺う。 国保の財政安定化のため、大きく減らされてきた国保への国庫負担の増額と県からの財政繰り入れを強く要請すべきと考えるが、市長の考えを伺う。			市 長
2. 平成 30 年 (2018 年)以降の 米つくりについ て	平成 30 年(2018 年)から、国による生産調整の廃止、直接支払い交付金がゼロとなる。各種交付金など助成金が収入に占める割合は大規模経営ほど高くなっている上、生産調整をやめ、市場任せにすれば、産地間競争の激化と米価下落を招き、米作は立ち行かなくなる。 欧米で実施している生産費を補う価格保障の実現が必要だが、当面、戸別所得補償政策の復活が、米つくり継続の絶対条件だと考える。復活を政府に強く要請するとともに、市としての対策も必要と考えるが、来年度以降の施策の方向について伺いたい。			市 長

順位	9	質問者	谷口 隆明	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
3. 核兵器禁止条約について	国連核兵器禁止条約交渉会議（第2回交渉会議）が6月15日から7月7日で行われる。被爆県の市長として、国連会議へ参加するよう日本政府に強く働きかけるとともに、「ヒバクシャ国際署名」の推進に積極的取り組まれるよう求めたい。市長の考えを伺う。			市 長
4. 東城での一般病床の廃止について	こぶしの里病院の一般病床が、5月29日で廃止となった。市民への周知が不十分でよく知られていない。 病院設立の経過を知り、覚書・契約書を結んでいる行政として、今後どのように対応していくのか伺う。			市 長

順位	10	質問者	田部 道男	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 水田減反、転作制度の転換に伴う対応について	(1) 国は水田減反・転作を平成30年度より転換し、生産数量目標の策定・配分はやめ、生産調整に協力した農家に出る補助金は廃止される。これにより農地の荒廃が懸念され、経営所得安定対策事業、中山間地域等直接支払事業への影響が出ると考える。 耕種、畜種にわたり広島県で一番の農産物の生産を担う本市の農業者が安心して農業経営の持続が図られるよう、関連事業と事務対応を統合した対策を国・県に求めるべきと考えるが、市長の考えを伺う。			市 長
	(2) 農業生産法人の育成で集落営農が進められたが、法人の経営状態は米価の低迷でいずれも営業収支は赤字で、中山間対策、経営所得安定対策等の営業外補助金収支の黒字と地代・労賃の圧縮で経営が成り立っている状況と考える。 また、構成員の高齢化、働き手の不足もあり、経営悪化が顕在化すると、集落の運営にも悪影響を及ぼすと考え。経営内容にも留意し、きめ細やかな行政対応を求めるが、所見を伺う。			

順位	10	質問者	田部 道男
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
1. 水田減反、転作制度の転換に伴う対応について	(3) 新しい農業災害補償制度、収入保険制度が平成31年度より導入予定で、加入対象条件に青色申告者で1年以上の実績が必要となっている。 本市農業者で、青色申告をしている者の状況と、青色申告の推進についての考えを伺う。		市 長
2. 株式会社緑の村の役員体制について	株式会社緑の村の役員体制について、取締役9名のうち現在、市長、両副市長の行政トップが取締役に就任している。 監督権と経営面を考慮しながら近い将来、社内人材を育成する観点等から、行政トップ三人体制を見直す考えはないか伺う。		市 長

順位	11	質問者	政野 太	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1．人口減少時代 におけるまち づくり・ひとづ くりについて	(１) 本市においても、人口減少対策は最重要課題として位置づけられ、定住施策、中小企業振興施策、子育て支援施策と様々な策を講じているが、庄原市第２期長期総合計画におけるこれらの施策の重要業績評価指数（ＫＰＩ）は設定されているのか。 また、設定がされている場合、現在どのような分析、評価がなされているのか市長の考えを伺う。			市 長 教育長
	(２) 本市のまちづくりにおける最高規範である「庄原市まちづくり基本条例」の視点から考えたとき、現在展開されている人口減少対策の施策について、市民の参画はどこに位置づけられるのか市長の考えを伺う。			
	(３) 人口減少対策として、移住者の受入、人口流出抑止、交流人口の増などが有効的であることは承知しているが、一番大切なことは、人口減少時代に対応できる「まちづくり・ひとづくり」であると思うが、市長の考えを伺う。			

順位	11	質問者	政野 太	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 人口減少時代 におけるまち づくり・ひとづ くりについて	(4) 本市では、事業ごとに協議会、審議会 が設置されて施策に反映されている。事業 ごとに設置することで専門性は高まると認 識しているが、市民に広く理解を求めるこ とが難しい場合もある。人口減少時代のま ちづくりを考えると、世代間では考えの 隔たりがある。世代間ごとの意見に耳を傾 けることも重要であると考え、市長の 考えを伺う。			市 長 教育長
	(5) 人口減少時代への突入にあたり、10 年 後は難しいとしても、20 年後、30 年後に向 けての解決策は必ずある。その未来を担う 子供たちに対し、教育を施すことも効果的 であると考え。例えば、現在導入されて いるキャリア教育の幅を広げ、実生活に応 じた、結婚観に関すること、家庭観に関す ること、子育てに関することなど、年齢に 応じた庄原独自の教育施策を導入すべきと 考えるが、教育長の考えを伺う。			

順位	1 2	質問者	五島 誠	
項 目	質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨			答弁を 求める者
1. 人材育成及び 人材確保の取 り組みについ て	まちづくりはひとづくりとはよく言ったものであるが、特に本市においてはその重要性は今さら論じるまでもない。人口が減少し、分母が少なくなっている現状においては様々な分野で担い手不足が生じてきている。			市 長 教育長
	一方、仕事があれば環境のいいところに住みたいというのは前々から言われており、特に都市部の若年層を中心とした田園回帰の流れは今後も続いていくものと考えられる。			
	その中で、様々な分野における本市の人材育成及び人材確保の取り組みの現状、課題及び方向性について、所見を伺う。			
	(1) 本市の基幹産業である農林業において、特に後継者育成について、所見を伺う。			
	(2) 医療、福祉分野における担い手不足の解消について、所見を伺う。			
	(3) 子育て支援及び保育士不足の解消について、所見を伺う。			
	(4) 起業支援施策の今後の展望について、所見を伺う。			
	(5) 地域おこし協力隊の任期満了後を見据えた就業対策について、所見を伺う。			

順位	1 2	質問者	五島 誠	
項 目		質 問 の 小 項 目 及 び 要 旨		答弁を 求める者
1. 人材育成及び 人材確保の取 り組みについ て		(6) 本市ならではのキャリア教育の今後の 展望について、所見を伺う。		市 長 教育長
		(7) 人材育成及び人材確保の視点で、市長 が今後力を入れていきたいと考えている施 策について、所見を伺う。		
2. ヒバゴンの活 用について		いよいよ再びヒバゴンブームが到来しそ うな気配が感じられるが、情報発信や観光振興 等へヒバゴンを活用することについて、所見 を伺う。		市 長